

運上家の掟

幕末時期、島小牧場所の運上家において出稼漁民（二八取）に対して出された掟書。島小牧は現在の島牧村のうち。安政年間の島小牧場所請負人は小川屋九右衛門。

島小牧運上家文書は安政～慶応年間(1854～1868)に運上家において出稼漁民に対して出された掟書などの文書類。

解読文

- 島小牧
御場所掟条目
- 一 従前々
御公儀様被 仰出候御法度之
趣堅く相守可申事
- 一 御用所より御触出し之趣堅く
相守、猶又御見廻之節、決而不礼
等致間鋪、若心得違之者於有
之者、其俣ニ難差置候事
- 一 異国船又者怪敷船等遠近沖合
ニ而見請候節、其哥々番家二八取家より
運上家江、早速訴出可申事
- 一 御軽物小皮之類隠売買自前ニ堅く
停止、若越年之人々獵事致候節者
干揚運上家江可差出事
- 一 於山ニ合船木品家木者勿論青木
椴早切桁寸広椴角桎木寸甫
御免判無之猥ニ伐出し、堅停止之事
- 一 近年ニ相成御通行繁敷ニ付人足
運上家より申附次第可差出并番家
浜役より申付次第早速引船差出し
可申、都而番家浜役より諸事申附方相
背不申様、急度嗜相守可申候、若
違背之者於有之者誰人ニ而も番家
浜役より無遠慮可申出事
- 一 其最寄ニ而評時化ニ不抱持船者勿論
通行船難破等有之候節者、致手宛介
抱持場隣浜ニ至迄居合之人數早速
罷出致助情、品物籠抹無之様取扱可
申、猶運上家江早々可申達事
- 一 沖合鯡郡来候節、網剪解之儀者相互ニ
可致吟味并釣物出候節這繩切候事、
右等之儀者堅く停止之事
- 一 鯡漁業中哥々ニおみて搔廻し相立、
亭主直々知時期、見計無油断、時々
相廻り可申、尚又一同致□談大漁有之
様、昼夜相励ミ荷物出精可致事
- 一 土人江諸品交易并荷物隠し買入等
堅く不相成、若右様之者有之後日
落頭ニ及候節者、其俣難差置事
- 一 哥々火之用心大切ニ可致候并干物時之
節者くわひ□不相成山々野火附候
儀堅く停止之事
- 一 二八家越年家ニ而無判之者遣候も堅く
不相成并手間取名目ニ而博奕諸勝負
相好、喧嘩口論大酒致、右様之者御場所
中ニ忝人も差置不申、一夜之宿も貸申
間鋪事
- 一 近年江差町両在より取鯡積取小廻し

船相下り浜ニ潤懸、諸品売買致候由并春

荷物買入猥りニ入込候趣相聞候、今般改而

右様之船着致候ハ、定而番家江届も可

有之候、其節御判相改預り候而売買

為致候而も不苦候得共、積出之儀者浜

中役等者勿論、諸懸り相濟候節者当

方より書附持参之上番家立会、積入諸

品逸々相改、御判相返出帆為致可

申事

一前々より生鯡納屋揚之節、壺連式拾疋

繫より外不相成、外割鯡之儀者壺束も

拵申間鋪候、納屋揚致候ハ、銘々名札附

置可申、并鱒鮒類漁事致候得者改メ

不申内者下納屋ニ掛、改濟候ハ、上納屋ニ

揚可申事

一干鯡納屋落しを致手廻り兼候ニ付、

稲倉ニいたし置、右稲蔵より干鯡盜取候

者有之由、堅く停止之事

一大漁ニ而手廻り兼候節半分通納屋揚

致候ハ、番家江届改請置可申事

一惣歌鯡漁業中船ムダマ并皆具都而

長物海崖引廻し候儀、堅く停止之事

一前々より冬中越年之族浮合候而も鮑突

取候儀不相成、別而鯡漁業者ヤス遣

候儀堅く停止之事

一惣哥中都而寄物見受候節者前々より

申渡置候通其最寄之番家并運上家

江相届出可申候、若又、沖合ニ流レ物見請候

ハ、其哥江引付是又早速相届可申事

一走鯡二八納之節者身欠結立相納可

申、中鯡之儀者当方ニ参り身欠抜相

納可申事

一鱒改之儀者先規之通大小ニ相改可

申候、壺束目形式貫三百目ニ結立相納

可申事

一エトロへよりチワセハラウタ迄鯡群来初り候

節者合図之壺ツ火相建可申、前浜

群来候節者立岩ニ而式ツ火相建可申、

フリカワよりライキシ群来候節者同所ニ而

壺ツ火相建、猶又、大漁之節者前書之

通又候火相立可申、右様相心得可

被申事

一諸役物等之儀者先規仕来之通不相替

相納可申候、近年ニ相成等閑之

族も有之、以之外之儀ニ候、尤運

上家ニ而も夫々氣附致置候、以来心得違

無之様、相納可申事

一建網□網之儀一昨辰年より向五ヶ年

御免被仰付、随而右網相用候族、御冥加
金宛上納可致候事

一 御用所前々より御触出しも有之、鯡漁

業之外商売向無遠慮願出可申候、

隠し商ひ等者堅く難相成候事

一 近年ニ相成合船願出置候而も出来ニ不相

成候族も有之、又出来ニ相成漁業後他場

所并ニ和人地江売払候族も有之、左候得者売

船合船致候ニ相当り、依之山ニ青木も自然ト

伐尽し末々漁業手配ニ難渋致候間、売払候

儀堅く不相成、尚又、合船致両三年之内者

願不相成、然共漁業人数増持船不都合

之儀ニ有之候節者願出可致、右等之儀堅く

相守可申事

一 浜中是迄越年致鯡場居小家立去候

節、相對ニ而売買致候族も有之内、甚以心得違

之儀ニ候、以来者鯡場居小家者勿論杭早

切等ニ至迄相對売買決而不相成運上

家江届ケ出之上差図を受可申事

右ケ条之趣哥々二八取衆中

心得違無之様、堅く相守可

申候、以上

鳴古卷
運上家

安政五年
午二月

異体字

…様

…決

語句

うたうた

哥々…海沿いの集落か。アイヌ語の「オタ」は砂、砂浜の意。

にはちとり

二八取…追鯨漁者のことで、出稼地の場所請負人に島小牧（現島牧村）以北では漁獲物の約2割、瀬田内（現せたな町）以南では1割（一九取）を納め、残りを自ら取得する者。

参考文献

北海道新聞社編『北海道大百科事典』 北海道新聞社 昭和56年

『角川日本地名大辞典 1北海道 上巻』 角川書店 昭和62年